



JSBMR Newsletter No. 7

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 5-5-15 新大阪セントラルタワー8階

TEL: 06-4806-5656 FAX: 06-4806-5658

第24回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2006年7月6日(木)~7月8日(土)
会 場: TFTホール
会 長: 新潟大学大学院医歯学総合研究科
細胞機能制御学分野 教授 川島 博行
参加費: 12,000円 (学生5,000円 … 学生証の提示が必要です)
懇親会費: 3,000円

<http://www.procom-i.co.jp/jsbmr2006/>

詳細はプログラム抄録集をご覧ください。多数の参加をお待ちしております。

~~~~~ 2006年度の各賞が決定しました ~~~~~

5月に行われた選考委員会・理事会において、2006年度の各賞が下記のように決定いたしました。

【学会賞】 清野 佳紀 (大阪厚生年金病院院長)

【学術賞】

- <内科系> 井上 聡 (東京大学) 「骨代謝疾患の治療薬作用機構ならびに疾患遺伝子の探索」
- <外科系> 萩野 浩 (鳥取大学) 「骨折発生の病態と予防に関する研究」
- <基礎系> 西村 理行 (大阪大学) 「骨格系細胞の分化制御機構に関する研究」

【奨励賞】

- <基礎系> 与語圭一郎 (奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科)
「SHIPはポドソームに局在し、Srcによって活性化された骨吸収反応の抑制に関与する」
- <内科臨床系> 窪田 拓生 (大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学小児科学)
「骨量低下を示した ringelschwanz マウスに由来する変異型 Lrp6 蛋白の機能解析」
- <外科・歯科臨床系> 河村 直洋 (東京大学医学部整形外科)
「Akt1 シグナルは FoxO3a、Bim の抑制を介して骨芽細胞のアポトーシスを阻害して骨量を維持する」

7月7日(金)13時15分より、総会に引き続いて授賞式、学術賞受賞講演が執り行われる予定です。

[IOF-ANZBMS Travel Award Winners] (順不同)

窪田 拓生	大阪大学	Liu Tingjiao	東京医科歯科大学
内山 聡志	静岡県立大学	藤田 順之	慶應義塾大学
斎田 良知	東京医科歯科大学	鈴木 朗	大阪府立母子保健総合医療センター
陶山 佳子	千葉大学	長谷川 拓郎	広島大学
近藤 武史	神戸大学	川田 滋久	奈良先端科学技術大学院大学
木全 正彰	大阪府立母子保健総合医療センター	杉田 淳	大阪大学
溝口 史高	東京医科歯科大学	中川 妙子	静岡県立大学
中村 美どり	松本歯科大学	山口 徹	慶應義塾大学
齋藤 広章	東京医科歯科大学	内橋 和芳	佐賀大学
目良 恒	新潟大学	岩崎 香子	クレハ分析センター
名和田 雅夫	産業医科大学	伊東 伸朗	東京大学
林 公美	島根大学	藤井 寿人	京都大学
遠藤 逸朗	徳島大学	瀬川 博子	徳島大学
日浅 雅博	徳島大学	金沢 一平	島根大学
澤田 直樹	徳島大学	河村 直洋	東京大学
川崎 洋介	東京大学	中西 りか	京都大学
太田 憲和	慶應義塾大学	真柴 賛	香川大学
岡 敬之	東京大学	坂井 貞興	慶應義塾大学
篠田 裕介	東京大学	加藤 雅敬	慶應義塾大学
村木 重之	東京大学 22 世紀医療センター		
堀内 圭輔	慶應義塾大学		

2005 ~ 2006 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2006 年 2 月 ~ 2006 年 5 月末)

1) 理事会

2005 年度 第 4 回理事会議事録

日 時: 2006 年 2 月 24 日(金) 15:00 ~ 17:00
 会 場: 千里ライフサイエンスセンター 20 階、2002 号室
 出席者: 松本俊夫(理事長)、山口 朗(副理事長)、大園恵一、
 加藤茂明、滝川正春、野田政樹、吉川秀樹、(理事)、
 清野佳紀、乗松尋道(監事)、川島博行(第 24 回会
 長)
 同席者: 米田俊之(国際渉外委員長)
 欠席者: 遠藤直人、太田博明、豊島良太、杉本利嗣、
 福永仁夫(理事)、鈴木不二男(編集委員長)、
 名和田新(ステロイド委員長)、
 中村利孝(QOL 委員長)、高岡邦夫(あり方委員長)

議 事:

2005 年度第 3 回理事会議事録の承認(松本理事長)
 2005 年 11 月 23 日に行われた 2005 年度第 3 回理事会の議
 事録案が提出され、承認された。

議事録署名人の選定について

事務局にて作成した議事録案の確認や、指導担当として、今

後、出席理事より 2 名ずつ順番に、署名人をたてることが確認
 された。今回の理事会では、大園理事、加藤理事が担当する
 事となった。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より、2006 年 1 月末時点の、役員数、会員数、およ
 び会費納入率が報告された。会費納入率については、ほぼ予
 算通りの回収であることが確認された。

2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より、2006 年 1 月末時点の、収入・支出について報
 告があった。今後、大きな支出としては、JBMM 制作費として約
 1,500 万円予定されている旨、報告があった。

また、特別会計として新設した「トラベルアワード基金」に、7 社
 の賛助企業より、合計 600 万円の協賛金が入金されたことが報
 告された。

3. 各種委員会報告

1) 学会誌編集委員会(清野次期編集委員長)

清野次期編集委員長より、JBMM の投稿および掲載状況に

ついて、投稿種類の内訳、却下率、国別の内訳など、詳細な報告があった。また、学術賞、奨励賞を受賞された先生にぜひ投稿いただくよう呼びかけがなされた。

オンラインジャーナルについては、現在大園委員を中心にデモを進めており、1年以内に開始する予定である旨報告された。大園理事より、JBMRと同様、シュプリンガー社の“エディトリアルマネージャー”のシステムを採用することについて、詳細な説明があった。

また、論文のカラー写真代を現在は学会負担にしているが、今後投稿者の負担とすることについて提案があった。

最後に、エディトリアルボードや、海外のアドバイザーボードについて新しいメンバー編成を検討している旨報告があり、ふさわしい人について推薦の呼びかけがなされた。

2) 学術賞・奨励賞選考委員会(松本理事長)

協議事項参照

3) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(松本理事長、事務局)

中村委員長より、現在、QOL 評価質問表の Confirmation Study として、各施設で採取したデータの統計的な解析を行っている旨報告があり、アドバイザーとして関わっている埼玉医科大学の熊本圭吾先生の作業費を、予算より拠出する事について申し入れがあった。(事務局より代理報告) 科研費における医師等の作業費金額を目安として、日当 15,000 円にて支払うことが承認された。

4) 国際渉外委員会(米田委員長)

特になし。

4. 第 24 回骨代謝学会準備状況について(川島第 24 回会長)

川島会長より、一般演題の登録画面について、紹介があった。奨励賞の応募区分について、基礎系と臨床系の区別をより明確にするため、今回より新たに「研究が主として実施された施設」について質問項目を作ることや、メールアドレスの項目を新設し、学会員のアドレス登録を推進することについて提案があった。また、今回限りとして、IOF-ANZBMS への参加申込の項目を追加する旨、報告された。

また、ミニシンジウムテーマや、ランチョンセミナー、プレナリーセッションの企画について、説明があった。

5. 学会誌掲載論文の転載許可について

事務局より、学会誌掲載論文(ステロイド骨粗鬆症ガイドライン、骨粗鬆症患者 QOL 評価質問表、および原発性骨粗鬆症の診断基準)の転載について、前回理事会より7件の依頼が届いた旨、内容など報告があった。

6. IBMS Membership Committee Call

IBMS の Membership committee について 2 月 24 日未明に電話による会談が行われた旨、松本理事長より報告があった。日本に対し、オーストラリアやスペインと同様、賛助企業に会費を援助し

てもらい、会員数増加を図るよう意見があった旨報告されたが、日本では公正競争規約に違反するため、本会としては、却下することが確認された。

IBMS の理事には、野田理事が就任していることや、現時点の会員数でみると、43ヶ国ある中の4位であることから、日本の国際的な貢献を強調しつつ、発言権や、意思決定において、立場を強調する姿勢を採ることが確認された。

7. ロダン先生のご逝去について

松本理事長より、今年の1月2日に、IBMS の大阪大会にて会長をご就任いただいたロダン先生がご逝去され、本会よりメール理事会にて、1,000 ドルの寄付を行うことが決議され、執行に至った旨報告され、また、野田理事より告別式当日の様子について報告があった。JBMM にロダン先生の追悼文を寄稿していただくよう清野編集委員長より依頼があり、野田理事が執筆することとなった。

< 審議事項 >

1. 新評議員の推薦について(松本理事長)

松本理事長より3名の新評議員の推薦があったとの説明があり、満場一致にて承認された。

久保 俊一 先生 (京都府立医科大学大学院医学系
研究科 運動器機能再生外科学 教授)

田村 正人 先生 (北海道大学大学院歯学研究科
口腔分子生化学教室 教授)

二藤 彰 先生 (独立行政法人放射線医学総合研究所
先端遺伝子発現研究センター 教授)

なお、評議員の南雲正男先生より退会の申し出があり、承認された。

2. 学術賞・奨励賞選考委員について

学術賞・奨励賞選考委員会の委員会の設置について、松本理事長より今年については、理事会メンバーを中心に構成してはどうかとの提案があり、承認された。また学術賞の候補者について、推薦の呼びかけがなされた。

3. IOF-ANZBMS 合同学会について

2006 年 10 月に開催されるオーストラリアとの合同学会について、松本理事長より、大会長からは積極的な参加の呼びかけがあるが、大会本部の財政は厳しい状況であり、招待講演者への旅費、宿泊費の捻出も困難である状況について報告があった。本会の基金の運用について、こうした状況に影響を受けることがなく、なるべく若手の研究者に多く授与できるよう、検討することが確認された。

協議の結果、今回のトラベルアワードについては、10 万程度を、約 20 名に授与する旨、演題登録画面にて公示することが確認された。

4. 骨密度基準値設定委員会について

松本理事長より、中村利孝先生から、骨密度基準値設定委員会設立の要望があり、委員会の設立と委員メンバーの承認について、申し入れのあったことが報告された。

背景には、1996年に本会が発表した骨粗鬆症の診断基準について、発表当初より10年が経過したため、診断基準の元として策定した、骨密度の基準値の設定を見直す必要のあることなど説明があった。協議の結果、委員会設立および、下記構成メンバーについて、承認された。

委員長 福永 仁夫(川崎医科大学放射線医学教室)
副委員長 中村 利孝(産業医科大学整形外科)
委員 太田 博明(東京女子医科大学産婦人科学教室)
白木 正孝(成人病診療研究所)
萩野 浩(鳥取大学医学部附属病院

リハビリテーション部)

細井 孝之(国立長寿医療センター)

塚原 典子(新潟医療福祉大学医療技術学部
健康栄養学科)

また、実際に測定を実施する際には、1,000万円以上の予算規模になることから、活動に備えた基金の設立を考慮する必要があることが確認された。

5. 2006年度骨粗鬆症学会とのジョイントシンポジウムについて

松本理事長より、今年10月に開催される骨粗鬆症学会の大会事務局より、特別企画として本会と合同のジョイントシンポジウムを開催するお誘いのあった旨、報告があった。協議の結果、ミニシンポジウムにて予定されている中村利孝先生が座長の「骨粗鬆症治療薬の新ガイドライン」を、骨粗鬆症学会との共同企画の形にて開催する旨提案があり、承認された。

骨粗鬆症学会の大会へは、山口副理事長をモデレーターとして選出し、演者を決めてもらうことが確認された。

* 上記ジョイントシンポジウムの決定事項については、後日、松本理事長より 骨粗鬆症学会事務局 川口浩先生へ連絡済み。

2) 各委員会報告

< 第25回日本骨代謝学会プログラム委員会 >

日時: 2006年5月12日(金) 14:00~15:00
会場: 千里ライフサイエンスセンター20階 2002号室
出席者: 松本俊夫(理事長)、山口 朗(副理事長)、
遠藤直人、太田博明、加藤茂明、杉本利嗣、
豊島良太、野田政樹、福永仁夫、吉川秀樹(理事)、
乗松尋道(監事)、高岡邦夫(あり方委員長)、
川島博行(第24回会長)
同席者: 小池達也(第25回事務局)
欠席者: 大園恵一、滝川正春(理事)、清野佳紀(監事)、
名和田新(ステロイド委員長)、
米田俊之(国際渉外委員長)

今後の学会予定

第25回日本骨代謝学会
会期: 2007年7月19日(木)~21日(土)
会場: 大阪国際会議場
会長: 高岡 邦夫(大阪市立大学)

第26回日本骨代謝学会(骨粗鬆症学会との合同開催)
会期: 2008年10月29日(水) 日本骨代謝学会
2008年10月30日(木)~31日(金)
日本骨代謝学会・日本骨粗鬆症学会 合同開催
2008年11月1日(土) 日本骨粗鬆症学会
会場: 大阪国際会議場
会長: 松本 俊夫(日本骨代謝学会)
高岡 邦夫(日本骨粗鬆症学会)

関連学会の大会開催予定

第26回日本骨形態計測学会
会期: 2006年7月27日(木)午後~29日(土)
(下記ホームページをご覧ください)
会場: 新潟コンベンションセンター 朱鷺メッセ
(新潟市万代島6-1)
会長: 遠藤 直人(新潟大学大学院医歯学総合研究科
整形外科分野)

事前参加登録受付期間 2006年3月13日(月)~6月20日(火)
一般(会員/非会員)事前登録 7,000円 当日登録 8,000円
学生(大学院生含む)事前登録 4,000円 当日登録 8,000円
主催事務局: 第26回日本骨形態計測学会事務局
〒951-8510 新潟市旭町通 1-757 新潟大学医学部整形外科教室室内
TEL 025-227-2269 (ex2272) FAX 025-227-0782
E-mail: endless@med.niigata-u.ac.jp
運営事務局: 株式会社 新宣 朱鷺メッセ営業所内
〒950-0078 新潟市万代島 5-1 万代島ビル 19F
TEL 025-243-7040 FAX 025-243-7041
E-mail: jsbm06@shinsen.biz
ホームページ <http://shinsen.biz/jsbm06/>

第9回癌と骨病変研究会
会期: 2006年9月8日(金)
会場: 淡路夢舞台国際会議場
代表: 松本 俊夫(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス
研究部)
参加費: 5,000円
演題募集締切: 平成18年7月14日(金)
募集要項は、ホームページをご参照ください。
研究会 URL: <http://www.sec-information.net/jscbd>
事務局: 有限会社グラフィティ内
〒107-0052 東京都港区赤坂2-20-2
ザ・エンドウビル1階
TEL: 03-3583-1745 FAX: 03-3583-1741
E-mail: jscbd@graffiti97.co.jp

第17回国際骨密度ワークショップ

公式ホームページ <http://www.procom-i.co.jp/ibd2006/>

1. 会議開催時期

2006年11月5日(日)～11月9日(木)

2. 会議開催場所

ウェスティン都ホテル京都 (京都市東山区三条躰上 〒605-0052)

3. 会議の性格と目的

International Bone Densitometry Workshop (IBDW)は1979年にHarry Genantの呼びかけで始められた国際的なワークショップで、これまで、欧米各所で16回にわたって開催されてきました。世界の科学者が一堂に会してDXA、CT、超音波、MRIをはじめとした骨量の測定技術を中心とした研究成果を発表しあうワークショップですが、特に骨組織の微細構造と骨強度との関連に関して進歩に大きく貢献してきました。もともとBone Densitometryのワークショップとして始まったものではありませんが、今やBone Densito-Morphometryとしての色彩をさらに強めていくものと期待されています。

第17回IBDWは初めて欧米を離れて日本で開催されますが、最近のMRIや μ CTの進歩を反映した最新の情報が討論されるものと思われます。

4. 会議計画の概要

(1) 会議の構成

- 1) 基調講演
- 2) 招待講演
- 3) 一般演題(口頭発表、ポスター発表)
- 4) ランチョンセミナー、イブニングセミナーなど
- 5) 展示会・企業プレゼンテーション
(商用展示、書籍展示など)

(2) テーマ 「From Bone Densitometry to Bone Densito-Morphometry」

(3) 参加者(予定) 350名(招待者を含む)

(4) 展示 商用展示

5. 組織構成等

第17回国際骨密度ワークショップ

共同会長 板橋明(埼玉医科大学中央検査部)
伊東昌子(長崎大学医学部放射線科)
福永仁夫(川崎医科大学核医学)

6. 大会事務局 (株)プロコムインターナショナル

担当者:石田、岩下

連絡先: 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7 秀和紀尾井町 TBRビル12階

TEL: 03-3234-9931 FAX: 03-3570-6073 e-mail: ibd2006@procom-i.co.jp

**3rd IOF ASIA-PACIFIC REGIONAL CONFERENCE ON OSTEOPOROSIS AND
16th ANNUAL MEETING OF THE ANZ BONE & MINERAL SOCIETY**

23-26 OCTOBER 2006

Sheraton Mirage Resort, Port Douglas, Australia

DRAFT PROGRAM SUMMARY

Invited Plenary Lectures

Epidemiology and Genetics

Goodbye T and Z, hello Absolute risk on the Y-axis
Epidemiology of Fractures – Known and Unknown
Genetics – What are the Questions, how to answer them
Genetics – What are the Answers
Central Control of Bone Material and Structure

Pathogenesis Modelling and Remodelling

Why do Bones Break – the Material and Structural Basis of
Bone Strength
Pathogenesis of Bone fragility – Racial and Sex Differences
Pathogenesis and Prevention of Arthritis
Growth Related Origins of Bone Disease

Cellular Symphony of Osteoclastogenesis

Osteoblast to Osteoclast, a Two Way Ticket
Immune Mechanisms in Osteoclastogenesis
Nuclear Receptor Targets in Bone

Mesenchymal/Haemopoietic Interactions in Osteoclastogenesis
Mechanical stress-induced AP-1 and Smad signalling for
osteoblastic differentiation

Therapeutics

New Drugs, New Mechanisms (Strontium Ranelate, AMG 162,
Vit K)
Anabolic Agents – Approaches to The Holy Grail for Bone
Future of new Vitamin D analogs

Other Topics

Corticosteroids and Bone – Mechanisms, Treatment
Multiple Myeloma
Cancer and Bone - a New Frontier in Drug Discovery in
Oncology
Growth – Choosing the Right Parents
FGF 23 Phosphatonin
Signaling for Cartilage Differentiation

Oral presentations from abstract submissions (n = 72)

Poster sessions – daily, all posters mounted throughout the meeting

Industry sponsored symposia

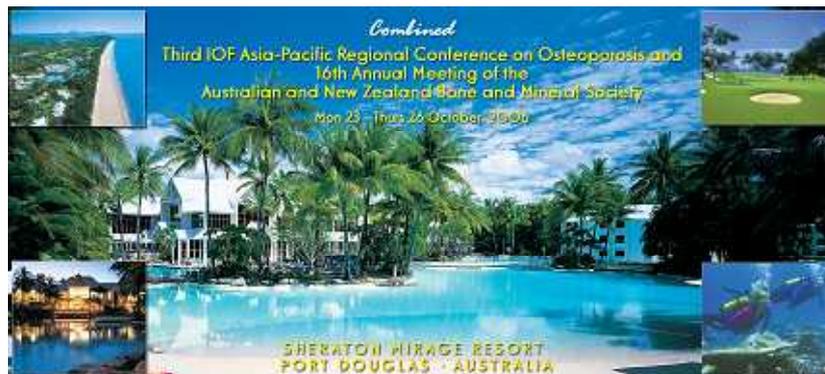
Five x 2 hour slots (Mon 6.30 pm, Tues 12 noon and 6.30 pm, Wed noon, Thurs noon)

Expert Panel Workshops

- (A) Inter and intracellular signalling - Monday
- (B) Bone Quality – what is it, can it be measured and applied clinically? - Wednesday
- (C) Treatment – why, who, when, what drug, how long? - Thursday

Weekend prior meeting

Densitometry training course for Technicians and Physicians
IOF Meeting
Osteoporosis Australia Physicians Update Clinical Update day
Paediatric Day



メールアドレスご登録のお願い

本会では、会員様へのご連絡などをより円滑に行うため、メールアドレスのご登録を呼びかけたいしております。メールアドレスを事務局宛て、下記の要項にて、FAX またはメールにてお知らせください。

ご登録いただいた方へは、ニュースレターや、その他国際骨代謝学会の情報など、メールにていち早くご提供させていただきます。ご協力のほど、何卒よろしく願いいたします。

メールアドレスご登録 FAX 送信先: 06 - 4806 - 5658

ご芳名 :

ご登録メールアドレス :

* 上記の内容を、FAX または E-mail (jsbmr@conet-cap.jp) にてお寄せください。

日本骨代謝学会は、運動器の10年日本委員会に加盟しています。



「運動器の10年」世界運動